

第57回・丙申歳十二支会例会「猿ヶ嶽429.6m」

◇実施日：平成28年01月09日(土)～11日(月・祝)

◇参加者：玉岡憲明、玉岡 明、山上皓一郎、山上昌子、

川島 功、前田 正、大江加予子、大江徳子、

生熊敏男、生熊千満子、石橋哲郎、石橋隆子、

椎木 堯、森口一郎、森口 緑、小林和子、鶴岡 栄。

十二支会員(太字)7名、ビジター10名 計17名。

丙申歳の十二支会例会は、前夜祭は山口市・湯田温泉、翌日山口市・猿ヶ嶽(IV・429.6m)で行われ53名が集った。

新宮山彦ぐるーぷは、玉岡憲明・明氏は、フェリー経由(新宮↓泉大津港↓門司港↓山口)。山上夫妻と娘さんの森口夫妻は、航空便(新宮↓関空↓佐賀空港↓山口)。自家用車班8名は、新宮↓中国吹田IC↓山口と椎木氏(広島↓山口)。横浜の小林・鶴岡さんは新幹線と別れて行動し、前夜祭会場(山口市街中心地)の湯田温泉「西の雅・常盤」に集うことになった。

1月09日(土) 晴

自家用車班の前田・川島は、5時半前に沖崎宅前で大江車に乗換、那智勝浦町川関の生熊宅に立寄り大江車に6名が乗る。新宮下里高規格道路を経て紀勢道・すさみ南ICに入り、阪和道始点・南紀田辺ICを経て印南PAで小休止し、紀ノ川SAで石橋車と合流し生熊夫妻が乗換。

三連休の初日で渋滞が予想されたが、順調に中国吹田IC、神戸JCT、三木JCTを経て山陽道・三木SAでトイレ休憩。

吉備SAで昼食後、宮島SAで休憩し小郡ICで降り、予定よ

り少し早い15時10分にホテル「西の雅・常盤」に到着。椎木車が停車している。ホテルは県道204号線沿いにあり駐車場は県道を横切った地点の為、ホテル従業員が荷を降ろすと駐車場に移動して、フロントで鍵を預けることになる。

受付を済ませると先着の山上氏が迎えて下さる。部屋に荷物を置き受付へと降りると、入浴後の玉岡さんと出会う、一山登って来たとのこと、本当に元気になられた。

前夜祭は18時より、司会を仰せつかった川島世話人の開会の辞で始まり、林世話人より地元挨拶後、十二支会員の慶事として元会長・玉岡憲明さんの「緑綬褒章受賞」を紹介する。

今年の慶祝者は、還暦；林 和子・野々部節子(欠)。古稀；前田 正・中谷絹子・今峰正利・堀 義博。喜寿；中田 勇(欠)・リチャード、スタイナー・猪又敦子(欠)。傘寿；清水千枝子・中野 聡(欠)・立川義秋。米寿；熊本哲三(欠)。の13名中8名が舞台上がり記念撮影。当ぐるーぷから前田・中野・熊本の3氏が慶祝者であったが、2名は体調不良で欠席された。



慶祝者の記念撮影



第60回迄参加しよう！



ビジター紹介

会旗引継ぎは、溝部さんから林和子さんへ。寄贈は、清酒2本；瀬祭・山口グループ、太平洋・新宮山彦

ぐるーぶ、太平洋生しぼり・川島。清酒1本；にがり酒・掘会長、太平洋生しぼり・玉岡元会長と山上氏、竹鶴・椎木氏。さんま寿司54本；大江加予子さんから差し入れがある。

林世話人の事務局の連絡事項に入ってから、川島の司会進行ミスで会長挨拶をして頂く。

一巡目十二支会誌に続き、二巡目以後の会誌編纂に取り組んでいるので協力依頼と後3回の第60回で十二支会は幕を閉じるので、それまで皆で協力して盛り上げて頂きたいと挨拶された。

中断した事務局連絡事項報告があり、河村 清氏の乾杯音頭の発声で開宴する。

ビクター紹介は、山上夫人と娘さんの森口夫妻、玉岡 明、生熊夫妻、石橋夫妻、横浜の小林・鶴岡さんの紹介がある。申歳生れは、10名の紹介(出席者7名)と粗品進呈。当ぐるーぶでは、ビクター参加の生熊敏男さんが該当。



山口Gr 吉田松陰を歌う 新宮山彦Grの山の唄 女性コーラス

余興は、山口グループによる吉田松陰の歌をかわきりに、鶴岡さんの塩釜音頭等の踊りにおひねりが投げ入れられる。又、同生年月日の玉岡・河村さんは、第60回まで参加する

ぞと表明され拍手喝采である。

口上入り山形大黒舞、女性コーラス、新宮山彦ぐるーぶによる山の唄、玉岡さんの十八番「函館の人」の踊りがあり宴会が盛り上がる。

一次会のトリアは、林世話人の日立トシヨ節。「常盤」の名物女将劇場開演前の20時40分に、山上さんの一本締めで一次会が終了。

度々テレビで紹介される女将劇場は、太鼓・マジック・水芸踊り等の演出が約1時間あり、終了した22時過ぎにようやく二次会が盛り上がり23時過ぎに終宴した。

行動タイム

新宮5:25→5:40 生熊宅5:45→7:05 南紀田辺IC→7:20 印南PA 7:25→8:00 紀ノ川 SA8:15→8:35 岸和田料金所→9:00 中国吹田 IC→9:45 二本 SA10:05→11:15 吉備SA(昼食)11:50→13:30 宮島 SA13:35→15:00 小郡IC→15:10 ホテル「常盤」。
・ 走行距離・755 km、高速料金；約1万。

1月10(日) 晴時々薄曇、風弱し

7時から朝食。7時半から受付で弁当+大江さん手作りさんま寿司1本+飲料物を受取る。

8時半前にホテルからバスと自家用車16台が連なり、県道21号線の小鯖四区公民館に向け出発。公民館に一旦集結し後続車を確認する。

此処から伐採した山頂は、U字に見え直ぐ山頂が確認できた。トイレ休憩後、林道大平線を2.7km走ると林道の左右に広い草地の駐車場があり駐車する。

直ぐ右にチェーンした作業道があり、No6と7鉄塔の道標が在り、此処が登山口だ。

今峰・川島は、山頂標識設置に先行する、会旗持ちの林和子さんが先頭で隊列を整え出発となる。

林道は右に廻りこむ地点が終点で、鉄塔敷地の西端の雑木斜面を直登する。

小ピークを越え大岩の基部を回り込み直登すると程なく山頂である。



小鯖公民館からの猿ヶ嶽



先頭の会旗到着！



玉岡元会長登頂！

猿ヶ嶽の山口グループ会員の下山行は、三角点設置の点の記に基づき登ったが、藪と急傾斜で十二支会の登頂コースには不適。又、樹林に囲まれ展望は全く効かなかったとのこと。

そこで登頂ルートを鉄塔巡視路側からの尾根を辿るコースとして木製と土を削った段差足場が造られ、ザイルによる手摺も取付け。又、山頂市有林の伐採許可を得て、広く伐採され東面に一等三角点の大平山、右田ヶ岳と眼下に防府市街地が、北西側には山口市街地が見える様に、地元等の協力を得たといえ、すばらしい十二支会会場に整備して頂き、山口グループ会員の奉仕労力と団結力による成果であり、感謝で頭が下がります。

山頂標識設置10分後に会旗を持った先頭が到着し、しんがりから遅れること10分の10時半過ぎに、迎えに下りた掘会

長と玉岡元会長が登頂された。

早速、IV等三角点の猿ヶ嶽(429.6m)点名；奥山の山頂に掘会長の発声で今西流の万歳三唱！

山頂の慶祝行事が行われ、登頂慶祝者8名に慶祝金を渡し、日本海と太平洋を祝杯に注ぎ飲んで頂く。掘会長は慶祝者であり、玉岡元会長より慶祝金を授与して下さり華をそえた。慶祝者の記念撮影を行い昼食。今年は風も無く暖かった。



猿ヶ嶽にかけ万歳三唱！



古稀慶祝の前田氏



玉岡さん掘会長へ慶祝金贈呈

山口グループは、寒風を避けるため、山頂横の樹林の中に広場とトイレも設置し用意周到であった。



新宮山彦ぐるーぷ



登頂者の記念撮影



さらば逢う日までの横断幕

全員の記念撮影をして、新幹線利用者を考慮し早目の11時過ぎに、次回例会(2017年1月14日~15日)は、岐阜県山県市の金鶏山(Ⅱ等407.4m)で開催予定の報告があり下山開始。登山口の「さらばまた逢う日まで」の横断幕に迎えられ下山した。

玉岡さんは、最後に山頂を下山されたので約35分遅れて小鯖公民館へ。バス組は出発して山彦ぐるーぷが最後に残る。

公民館では、暖かい「ぜんざい」「コーヒー」の接待がある、裏方に徹せられた野原さん達に感謝致します。



公民館にてトンボ帰りの計画を急遽変更し、皆で相談の上、宮島の弥山には、ロープウェイで登ったがバス旅行等のため、山頂を踏んだ川島以外は登頂してない事から、明日宮島・弥山登頂が決まる。

ビジネスホテルは、岩国市に多いとのことで、これから宿泊先を捜すことになったが、椎木氏が奥さんに連絡して、錦帯橋

傍の岩国国際観光ホテル和風別館「開花亭」を手配して頂いた。山口グループに見送られ山口市内へと戻り、香山公園・瑠璃光寺の国宝五重塔・毛利家の墓所を見学していると、九州の加藤氏とうぐいす張り石畳で出会う。その後、常栄寺・雪舟庭を見学後、防府東(〇)に入り岩国(〇)で降り、和風別館「開花亭」に着くと、椎木氏が宿泊手続きをして待機。



瑠璃光寺・国宝五重塔



常栄寺・雪舟庭



岩国市・錦帯橋

明日、宮島をご案内頂けるとの事で宮島口8時に待合せを決める。出発7時10分として、ホテルに朝食時間を尋ねると7時半からの事で素泊まりとする。4人部屋4室を手配下さって、2名/室、料金は4320円/人と椎木氏のお陰で安価で疲れを癒す宿泊先となった。

夕食は、錦帯橋を渡った地点にあると教えて頂いたので、錦帯橋を見学しながら渡り、食事処を捜すが殆んど閉まっている。土産物店で岩国寿司(押し寿司)と岩国蓮根コロッケ(岩国蓮根は穴が一つ多い9穴)を買う。

コンビニでビール・焼酎を調達し、椎木氏から頂いた竹富4合瓶を頂戴する事にして、ホテル1室に持込み8名が集い、入浴後18時半より談笑宴会、22時過ぎに就寝。

行動タイム

ホテル「常盤」 8:25→8:45 小鯖四区公民館 8:50→9:00 登山口
 9:10→9:55 猿ヶ嶽山頂 11:10→11:45 登山口 12:20→12:30 小鯖四
 区公民館 13:10→13:30 瑠璃光寺 14:00→14:10 雪舟庭 14:35→
 15:00 防府東IC→15:40 若国IC→15:55 「開花亭」→18:30 夕食→
 22:00 就寝。

1月11日(月・宿) 曇時々晴後快晴

宮島口に着き椎木氏と合流して、8時発の宮島松大汽船で宮島へ渡る。早朝なので土産物店は開いていない。又、観光客も少なく静寂な厳島神社を参拝出来た。

参拝出口でロープウェー組(大江加予子・徳子、生熊熊男)と徒歩組(椎木・川島・前田・石橋夫妻・生熊千満子)に分かれた。川島は、前回大聖院コース(3km)から登ったので、宮島水族館を過ぎた大元公園からの大元コース(3.4km)から登る。



厳島神社にて



大元コース者



駒ヶ林(509m)山頂

汗をかき富士岩手前でセーター等の上着を脱ぎ厚着解消。風吹岩・大師堂付近は、斜面に大岩が露岩し、ジグザグに石段を登って尾根に出て小休止。

尾根から駒ヶ林尾根山腹捲く横道になり、駒ヶ林分岐から駒ヶ林山頂(509m・別名:竜ヶ馬場)へ。

山頂は、南北35m、東西10mの花崗岩の岩石床で西面は50m、長さ450mの断崖となり岩場トレッキング場とのこと。又、1555年の厳島合戦は、毛利方が奇襲攻撃で大勢が決し、勇将・弘中三河守が弥山に立てこもったが、兵糧攻めの作戦で毛利方の吉川元春に討ち取られた場所とのこと。

駒ヶ林分岐から下ると大聖院コース分岐。直ぐ上に2004年の台風で壊れ2012年に再建された仁王門がある。

御山神社(厳島神社の奥の宮)への分岐を経て、弥山本堂と霊火堂(弘法大師の護摩火が1200年消えずの火)に登る。

大元・大聖院コースへ下る登山者は、あまり会わなかったがロープウェーからの登山コースが合流し、多くの登山者・参拝者が登って来ている。

文殊堂・くぐり石を抜けると二等三角点(529.8m)がある。大岩があるので弥山山頂は535mとなっている。

山頂展望台からは360度の大パノラマが望まれ、ロープウェイから登った組が約30分待った様だ。

下山路は、干満岩・大日堂を経て弥山本堂へ戻り参拝し、紅葉谷コース(2.5km)から全員下山する。

登山者が次から次へ登って来て「こんにちは」を交わしながら下山。紅葉谷登山口とロープウェー乗場の分岐で、下山で使わなかったロープウェー切符は、これから乗る人に大江さん「良かったら使って!」とあげられた。

下山すると、厳島神社の参拝口は行列で、土産物通りは人で溢れている。

宮島の名物「揚げ紅葉饅頭」の土産物店に立寄って買物。



弥山山頂・三角点にて



紅葉谷登山口付近



かき小屋で焼きかき堪能

12時53分発のフェリーで宮島口に渡り、椎木氏の案内で島田水産のかき小屋でかき定食二千円(かき1kg、かき飯、かきフライ、佃煮、味噌汁)で、本場広島かきを堪能した。

14時半前に椎木氏と別れ、山陽道・廿日市ICに入り、小谷SA、三木SAで小休止する。

三連休の帰宅時間で渋滞が懸念されたが、混雑無く紀ノ川SAに20時前に到着した。夕食は軽食で済ませ石橋車と別れる。生熊夫妻は大江車に乗換、生熊宅に立寄り、新宮に23時前に無事帰宅した。

急遽日程変更したが、椎木氏の宿泊先手配と宮島案内のお陰で、楽しい観光と弥山登頂が出来た事に、心よりお礼と感謝を申し上げます。

行動タイム

開花 7:10→7:20 岩国IC→7:35 大野IC→7:45 宮島 8:00→8:10 宮島→8:25 厳島神社→8:40 神社参拝出口→8:45 大元公園登山口→9:10 富士岩→9:50 尾根 9:55→10:02 駒ヶ林分岐→10:08 駒ヶ林山頂→10:22 仁王門→10:35 弥山本堂・霊火堂→10:45 弥山

山頂 11:00→11:10 弥山本堂 11:15→紅葉谷分岐 11:20→12:15 紅葉谷登山口→12:45 宮島 12:53→13:05 宮島口→13:20 かき小屋 14:25→廿日市 IC→15:15 小谷 SA15:40→三木 SA18:05→18:50 中国吹田 IC→岸和田料金所 19:25→19:45 紀ノ川 SA20:15→22:35 生熊宅→22:55 新宮。

(記 川島)